

研修 テーマ	自ら問いを見いだし探究することのできる力を育成する総合的な探究の時間の授業を目指して — 問いの質を測るルーブリックの活用と一枚ポートフォリオ評価の工夫を通して —
-----------	---

授業実践Ⅱ 高等学校第1学年総合的な探究の時間学習指導案

指導月日 令和元年10月21日

所属校名 宮城県石巻西高等学校

氏名 湯口 弘樹

1 単元名 「地域連携活動」

2 単元の目標

探究の見方・考え方を働かせ、地域と連携した横断的・総合的な学習を行うことを通して、自ら見いだした問いを基にして地域社会の問題と関連付けながら課題を設定し、解決するための資質・能力を育成することを目指す。

【知識及び技能】

探究の過程において、地域社会が抱える問題を理解するとともに「考えるための技法」を活用し、自ら見いだした問いを地域社会の問題と関連付けながら、設定された課題に当事者として向き合うことを通して、地域社会の一員としての自己の役割を理解するようにする。

【思考力・判断力・表現力等】

自ら見いだした問いを地域社会の問題と関連付けながら、課題を設定することができるようにするとともに、地域社会や地元企業と実際に関わり課題を検証しながら、はじめに立てた問いそのものを問い直し、新たな問いへと発展させることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

自ら見いだした問いを振り返り、多様な人々を巻き込んで、探究に主体的・協働的に取り組むことを通して、自ら学ぶ喜びを体得するとともに、持続可能な社会を実現するために地域社会に参画・貢献し、将来にわたって探究しようとする態度を養う。

3 単元観

単元「自己理解」では、自己と学問及び自己と社会のつながりについて考えながら、持続可能な開発目標（以下、SDGs）と自己のキャリア形成の方向性とを関連付けることを通して問いを見いだす学習に取り組んだ。また、単元「社会理解」では、地域社会や国際社会が抱える問題についてより具体的に知る中で、単元「自己理解」で見いだした問いの質や精度を高めてきた。そこで、本単元では、地域と連携した横断的・総合的な学習を行うことを通して、前単元までに自ら見いだした問いを地域社会の問題と関連付けながら課題を設定し、解決するための資質・能力を育成するとともに、自らの問いを振り返り、将来にわたって問い続けていこうとする態度を養うことを主なねらいとする。

第1時から第4時は「地域の問題を知る」ことをテーマとする。職業人インタビューを通して、地域社会や地元企業が抱える問題を知り、その問題を前単元までに生徒が見いだした問いと関連付けながら、問いの質や精度を更に高める。第5時から第17時は「探究課題の設定とその検証」をテーマとする。自ら見いだした問いと地域社会とを関連付けながら、探究していくための課題を設定し、インターンシップを通して、地域社会や地元企業と実際に関わりながら検証を行うとともに、はじめに立てた問いそのものを問い直し、さらに、問いの質や精度を高める。生徒が探究の過程を見通しつつ、自分の力で探究を進めることができるようにしたい。

4 生徒の実態〔第1学年3組 男16名 女23名 計39名〕

授業実践Ⅰ（単元名：自己理解）の前後で、生徒の探究活動に関する実態を把握するための意識調査を行った。その結果が図1である。将来の進路や生き方を想像することができている生徒の割合は授業実践Ⅰの前後で変化は見られなかった。年間や単元などのまとまりを通して、支援していく必要がある。一方で、興味を持ったたり疑問に思ったことを自分なりに解決しようとしたり、行動に移したことがある生徒の割合が大きく上昇した。自ら問いを見いだし、その解決のために行動したいという意識は養われつつあるのではないかと思われる。また、普段の授業がどのように役立つかを実感できていると回答した生徒の割合がやや増加した。これは、学習内容をSDGsと関連付けて一枚ポートフォリオ（以下、OPP）に記入する取組や自己と社会との関わりから問いを見いだす活動を行ったことで、普段の学習が社会や自己が抱える課題の解決にどのように関わるのかということ意識するようになったことが要因であると考えられる。

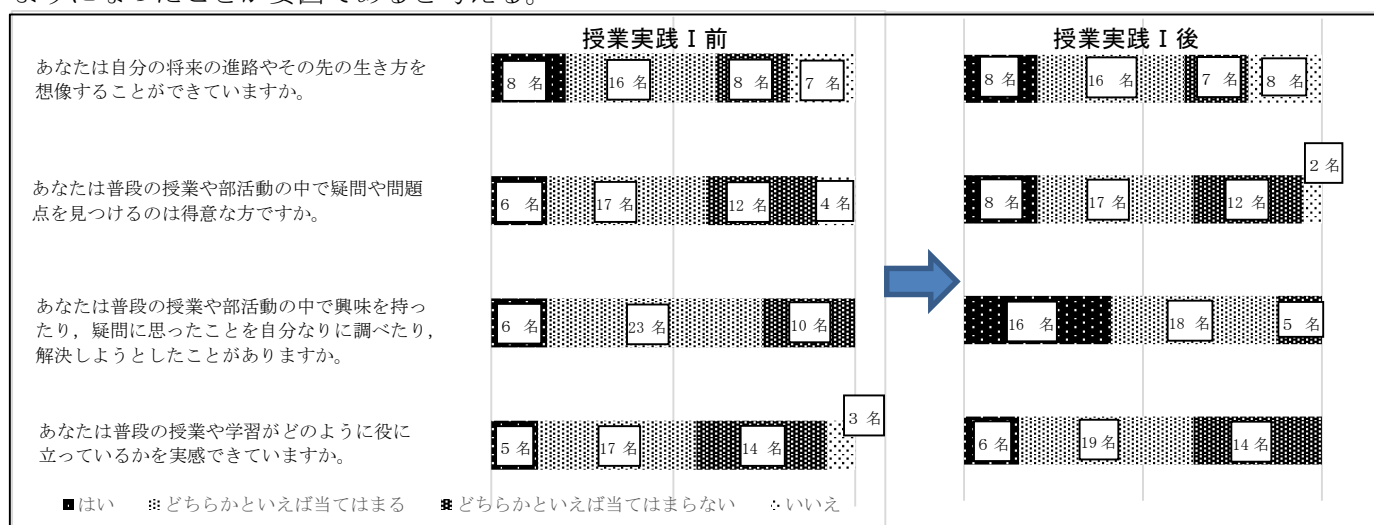


図1 生徒への意識調査結果 (n=39)

5 指導観

指導に当たっては、単元「自己理解」「社会理解」で生徒が自ら見いだし、質や精度を高めてきた問いから課題を設定し、地域を活動の場として、地域社会や地元企業と実際に関わることで課題の検証を行うことができるよう学習を進めていきたい。そのために、課題を設定する過程においては、「考えるための技法」としてベン図を活用し、設定した課題をWant（やりたいこと）、Can（できること）、Must（求められていること）の3つの視点で捉え、探究をより高度化させることができるよう支援する。また、Ⅰ期に引き続き、OPPに毎時間学習履歴を記入させながら、生徒が自己の思考の過程を一覧できるようにする。さらに、「地域の問題を知る」や「探究課題の設定とその検証」の小単元ごとに、自らの問いを振り返り、問いの質を測るループリックを活用して自己評価や相互評価を行う。これら多様な評価を組み合わせることを通して、生徒が自己の思考の変容を実感できるようにする。生徒が自らの問いを振り返りながら、将来にわたって問い続け、探究することができるよう深めていきたい。

6 自己の研修課題との関連

(1) 研修テーマ

自ら問いを見いだし探究することのできる力を育成する総合的な探究の時間の授業を目指して
 — 問いの質を測るループリックの活用と一枚ポートフォリオ評価の工夫を通して —

(2) 研修課題との関連

① 目指す授業像

ア 視点①

生徒が日々の学習活動を踏まえながら、実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだ

することができるようにする授業

イ 視点②

生徒が学習履歴の振り返りを通して、自己の在り方生き方についての思考の変容を認知し、更なる探究活動への動機付けをすることで、探究に主体的に取り組む態度を育成する授業

② 目指す授業像に迫る手立て

ア 視点①について

I 期に見いだした問いを小单元ごとに振り返り、問いの質を測るルーブリックを活用しながら自己評価や相互評価を行うことで、問いの質や精度を高められるように支援する。また「考えるための技法」としてベン図を活用し、設定した課題をWant, Can, Mustの3つの視点で捉え、より高度化させる中で、自ら地域社会に働き掛けるための新たな気づきや考えを持つことができるよう支援する。

イ 視点②について

生徒には毎時間OPPに学習履歴を記入させる。教師は毎回回収して生徒の様子を見取り、コメントを入れることで探究に主体的に取り組む意欲を高めるようにする。また、各小単元の学習後に生徒が見いだした問いを振り返らせ、その中で見いだされた問いをOPPに記入させることで、自らの思考の変容に気付かせる。

7 単元の指導と評価の計画（17時間扱い 本時5／17）

(1) 単元の評価規準

【知識・技能】

探究の過程において、地域社会が抱える問題を理解するとともに、自ら見いだした問いを地域社会の問題と関連付けるために、「考えるための技法」などを活用しながら課題を設定し、その課題の解決に向けて当事者として向き合うことを通して、地域社会の一員としての自己の役割を理解している。

【思考力・判断力・表現力】

自ら見いだした問いを地域社会の問題と関連付けながら、自己と地域をつなぐオーナーシップのある課題を設定するとともに、地域社会や地元企業と実際に関わり課題の検証を行うことを通して、新たに設定された課題を自らの問いの中に表現している。

【主体的に取り組む態度】

探究することを通して自己が見いだした問いや設定した課題に真摯に向き合い、異なる立場や考え方を受け入れ、地域社会において持続可能な社会を実現するための方法を様々に工夫しながら粘り強く取り組み、考えようとしている。

(2) 単元計画

単元を貫く問い：今のあなたが持っている「問い」は地域社会や国際社会が抱えるどのような問題と関連していますか。また、その問題に対してあなたはどのようなことができますか。		
時	主な学習活動【探究のプロセス】	評価の観点(評価方法)
地域の 問題を知 る	1 ・ 地元で活躍する社会人にインタビューをする上での質問を個人およびグループで検討する。 【課題の設定、情報の収集】	・【思】 自ら見いだした問いと関連付けてインタビューの質問内容を考え、適切に表現している。(観察, OPP) ・【主】 前時までの学習において自ら見いだした問いとインタビューの質問内容とを関連付けて考えようとしている。(観察, OPP)
	2 ・ 地域社会や地元企業が抱える問題を知るために、地元で活躍する	・【知】 地域社会や地元企業が抱える問題を理解している。(観察, OPP)

	3	社会人と交流し、インタビューを行う。 【情報の収集、整理・分析】	・【思】 社会人から聞いた話を踏まえ、自ら見いだした問いと関連付けて課題の解決に向けた方策をまとめ、表現している。(観察, OPP)
	4	・地域社会や地元企業が抱える問題の解決のために自分はどのように関わっていくのかを考える。 【整理・分析】	・【思】 地域が抱える問題の解決のために今の自分には何ができるのか、またこれから何を学んでいくべきなのかを具体的に考え、表現している。(OPP)
探究課題の設定とその検証	5 本時	・自ら見いだした問いと地域社会の問題とを関連付けながら、インターンシップを通して検証していくための課題を設定する。 【課題の設定】	・【思】 OPPや「考えるための技法」を活用して、自ら見いだした問いを地域社会の問題と関連付けながら、自己と地域社会をつなぐ課題を設定する中で得た新たな気づきや考えを持ち、表現している。(観察, OPP)
	6	・訪問企業の業務内容を知り、地域社会における役割を考える。 ・ベン図を活用し、訪問企業の業務内容を踏まえながら、どのようなアプローチで前時に設定した課題を検証していくかを具体化する。【課題の設定、情報収集】	・【知】 訪問企業の業務内容や地域社会における役割を理解している。(OPP) ・【思】 前時に設定した課題を、訪問企業の業務内容と関連付けながら、どのようなアプローチで検証していくかを具体化し、表現している。(観察, OPP)
	7	・就業体験を行うに当たっての留意点やマナーを身に付けるためのガイダンスを聴く。 ・就業体験において留意すべきことをまとめ、地域社会と関わる上での自己の在るべき姿について考える。【課題の設定、情報収集】	・【知】 就業体験を行うに当たっての留意点や社会におけるマナーを理解している。(OPP) ・【思】 就業体験において留意すべきことをまとめることで、地域社会と関わる上での自己の在るべき姿を具体化し、表現している。(OPP)
	8～ 13	・地元企業での就業体験や従業員へのインタビューを通して、設定した課題の検証を行う。 【情報収集、整理・分析】	・【主】 就業先で様々な工夫をしながら課題の検証をすることで、地域社会における自己の役割について考えようとするとともに、自らの意志で地域社会に参画・貢献しようとしている。(観察, OPP)
	14・ 15	・訪問企業の業務内容の中で、他地域や世界の課題解決につながる部分をSDGsと関連付けながら具体化する。 ・課題の検証を通して、新たに気付いたことをまとめるとともに、自ら見いだした問いを振り返り、問いの質や精度を高める。 【整理・分析、まとめ・表現】	・【思】 訪問企業の業務内容の中で、地域社会のみならず、他地域や世界の課題解決につながる部分をSDGsの視点を取り入れながら具体化し、表現している。(ワークシート, OPP) ・【主】 自ら見いだした問いの質や精度を自らの意志で工夫しながら、高めようとしている。(観察)
	16	・3学年のSDGs地域課題研究の発表を聴き、プレゼンテーションの手法を学ぶとともに、地域課題とSDGsとの関わりについて	・【知】 プレゼンテーションの手法を理解している。(観察, OPP) ・【思】 地域課題をSDGsと関連付けて多面的に捉えている。(観察, OPP)

		理解を深める。【情報収集】	
17	・訪問企業での課題の検証を通して、新たに気付いたことや訪問企業の業務内容に関連した、他地域や世界の課題解決につながる部分をまとめ、発表する。 【まとめ・表現】	・【思】グローバルな視点で地域課題解決を捉え、表現する際には相手に伝わるような工夫をしている。(観察) ・【主】地域課題とSDGsとを関連付け、持続可能な社会の実現のために、主体的に行動しようとする。(観察)	

8 本時の計画

(1) 目標

自ら見いだした問いと地域社会の問題とを関連付け、自己と地域社会をつなぐオーナーシップのある課題を設定することを通して、地域社会に働き掛けるための新たな気づきや考えを持つことができるようにする。

(2) 本時の指導に当たって

視点①に対して

ア 問いの質を測るルーブリックを用いて、生徒が見いだした問いの質や精度について自己評価及び相互評価するとともに、問いから課題を設定することができるように支援する。

イ 「考えるための技法」としてウェビングとベン図を活用する。ウェビングを活用して、見いだした問いと前時までに学習した地域社会の問題とを関連付けることができるよう支援する。またベン図を活用して設定した課題をWant, Can, Mustの3つの視点で捉え、地域社会に働き掛けるための新たな気づきや考えを持つことができるよう支援する。

視点②に対して

ア 課題をWant, Can, Mustの3つの視点で捉える際に、これまでOPPに記入してきた学習履歴と関連付けることができるように支援し、生徒がこれまでの学習内容を踏まえて課題を自分事化することができるように支援する。

イ まとめの場面で、見いだした問いをOPPに記入させることで、学習履歴を残すとともに見通しを持って探究活動に取り組めるように支援する。

(3) 指導過程

段階	学習活動	形態	○教師の働き掛けや留意点 【視点】	評価規準 (評価方法)
導入 (10分)	1 これまでの学習を振り返る。 2 問いの質を測るルーブリックを用いて問い、問題、課題の違いを確認する。 3 ウェビングを活用して「見いだした問い」をメインテーマに問いに内在する問題をマッピングする。 4 完成されたウェビング図の中で、「自分が一番問題だと思うこと」を1つ選ぶ。 5 ペアで共有する。	一斉 個人 個人 個人 ペア	○OPPを活用して、これまでの学習内容と現時点での問いを確認させる。 ○ルーブリックを活用しながら、問いから課題を抽出することができることを確認する。【視点①ア】 ○スクリーンに今行うべきことを映し出し、時間管理を行う。 ○見いだした問いに内在する地域社会の問題や自己の問題、さらに、書き出した項目から連想される事柄等についてマッピングさせる。 ○これまでOPPに記入してきたことを参考にさせる。【視点②ア】 ○聞き手には気になった項目について必ず質問をさせ、話し手には対話の中で自ら見いだした問いを修正させる。	

自ら見いだした問いと地域社会の問題とを関連付けながら、課題を設定しよう。

展開Ⅰ (10分)	6 4で選んだ問題が解決された目指すべき未来をワークシートに記入する。 7 4で選んだ問題を解決し、目指すべき未来を達成するために地域社会で自分が取り組むべき課題を付箋紙に記入し、ベン図を活用しながら課題をWant, Can, Mustに分類して、貼付する。	個人 個人	○6W2Hの視点を踏まえながら、できる限り具体的な未来をイメージできるよう支援する。 ○6W2Hの視点を踏まえながら、できる限り多く課題を出せるよう支援する。 ○3で作成したウェビング図や、これまでOPPに記入してきたことを参考にさせる。【視点②ア】 ○Mustの要素を盛り込む際、SDGsの視点も参考にさせる。【視点①イ】	
展開Ⅱ (25分)	8 グループでワークシートを交換し合い、他者のベン図に課題を記入した付箋紙を追加する。 9 7, 8で貼付された付箋紙を組み合わせながら課題をWant, Can, Mustの3つ全てに合致した自分事として取り組めるものにする。 10 9で自分事化した課題をペアで相互評価しながら、設定した課題の質や精度を高める。	グループ 個人 ペア	○4人1組のグループをつくり、他者のベン図に自分なりの視点で、課題を記入し、Want, Can, Mustに分類して、貼付させる。 ○ベン図内で付箋を移動させる際には、その軌跡を矢印で書き残させる。 ○自己と他者の付箋の記載事項をつなぎ合わせ、意味付けしながら課題を設定するように促す。 ○互いに問い掛けながら、設定した課題がWant, Can, Mustの3つ全てに合致しているかを検証する。	【思】観察 【思】観察
まとめ (5分)	11 本時で設定した課題の活用方法について確認する。 12 OPPに振り返りを記入する。	一斉 個人	○本時で設定した課題は、インターンシップやその先の学習の中で検証していくことを伝える。 ○本時で設定した課題や考えたことを記入させる。【視点②イ】	【思】OPP

(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準	十分満足できる (A)	努力を要する生徒 (C) への手立て
思考力・判断力・表現力	OPPや「考えるための技法」を活用して、自ら見いだした問いを地域社会の問題と関連付けながら、自己と地域社会をつなぐ課題を設定する中で新たな気づきや考えを持ち、表現している。	地域の問題を自分事として捉え、自ら見いだした問いと関連付けることで、本時以降の学習活動で具体的に検証することができる課題を設定するとともに、自己と他者の考えをつなぎ合わせ、意味付けを行うことができている。	OPPに記入してきたことを振り返ることができるように支援する。また、設定した課題が実際に検証可能なものか、課題を解決することが自己や地域社会のためになるのかを問い掛け、探究を自分事化し、自律的に行われることができるように支援する。

(5) 準備物

ワークシート, OPP, マジックペン, 模造紙, 付箋紙, PC, スクリーン, プロジェクタ

問いの質 ルーブリック

	S	A	B	C
問いの質の 評価基準	明確になっている問題と明確になっている課題をより具体化しており，新たな価値を生み出す問いになっている。	明確になっている問題に加え，問題の解決にむけた課題を明確にし，問いの中に盛り込むことができる。	問題は明確であるが，その問題の解決に向けた課題が明確になっていない。	問題を知るための問いになっている。
問いの例	2030 年までに(When)循環型社会を実現するために(Why)，地域に(Where)眠っているたくさんの(How much)資源の循環サイクルやリサイクル可能な製品を(What)ポスターにまとめ，地域に(Where)配布するには，誰に(Whom)どのように(How)働き掛けるのが最も効果的だろうか。	ごみの量を減らし，リサイクル率を上げるため(Why)には，私は(Who)身近なところから(Where)3Rを(What)どのように(How)呼び掛けていけば良いだろうか？	ごみを減らし，リサイクル率を上げるため(Why)に，私には(Who)どのようなことが(How)できるだろうか？	ごみ問題にはどのようなもの(What)があるだろうか？

<参考>

○「閉じた問い」と「開いた問い」

- ・閉じた問い：「はい」や「いいえ」もしくは1単語のみで答えられる質問

例)「これはテストに出ますか？」

- ・開いた問い：答える上で説明が必要な問い

例)「テストには何が出ますか？」

○「6W2H」とは？【問いの中での位置づけ】

What 何を【対象(物, 事)】 Why なぜ【目的】 Who 誰が【主語】 Whom 誰に【対象(人)】 When いつ【時期】

Where どこで【場所】 How どのように【手段】 How much どのくらい【量】

これらを具体的にしながら問いに盛り込むことで，問いの質が高まります。

「地域連携活動」学習のまとめ

1年 組 氏名 _____

/ ()

①今日の授業のタイトルをつけてください。

②今日の授業でどんなことが分かりましたか？感想だけでなく、大切だと思ったことを自由に書いてください。

/ ()

①今日の授業のタイトルをつけてください。

②今日の授業でどんなことが分かりましたか？感想だけでなく、大切だと思ったことを自由に書いてください。

/ ()

①今日の授業のタイトルをつけてください。

②今日の授業でどんなことが分かりましたか？感想だけでなく、大切だと思ったことを自由に書いてください。

/ ()

①今日の授業のタイトルをつけてください。

②今日の授業でどんなことが分かりましたか？感想だけでなく、大切だと思ったことを自由に書いてください。

/ ()

①今日の授業のタイトルをつけてください。

②今日の授業でどんなことが分かりましたか？感想だけでなく、大切だと思ったことを自由に書いてください。

/ ()

①今日の授業のタイトルをつけてください。

②今日の授業でどんなことが分かりましたか？感想だけでなく、大切だと思ったことを自由に書いてください。

単元の学習前と学習後に記入

【学習前】

今のあなたが持っている「問い」を書きましょう。



【学習後】

今のあなたが持っている「問い」を書きましょう。

【学習前】

今のあなたが持っている「問い」は、地域社会や国際社会が抱えるどのような問題と関連していますか？また、その問題に対して、あなたにはどのようなことができますか？



【学習後】

今のあなたが持っている「問い」は、地域社会や国際社会が抱えるどのような問題と関連していますか？また、その問題に対して、あなたにはどのようなことができますか？

【学習の振り返り】学習前後であなたの考えや問いはどのように変わりましたか。考えたことや感想を書きましょう。

問い = 問題や課題を内包する自己の探究の指針

